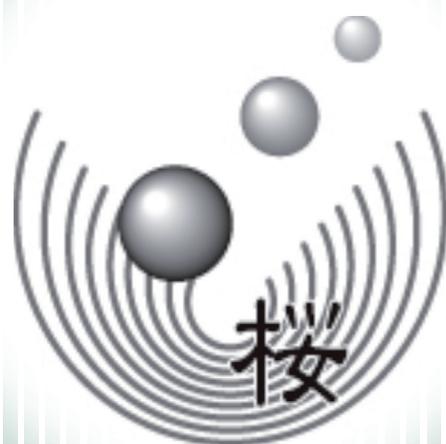


# 練馬区立 小中一貫教育校 実施計画(概要)

～大泉桜学園の開校に向けて～



練馬区立小中一貫教育校推進委員会

## 小中一貫教育校実施計画の作成について

### ●「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」策定（平成 20 年 11 月）

練馬区教育委員会では、義務教育 9 年間にわたる一貫した教育課程と学校環境のもとで、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒を育成するために、練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針を策定しました。

### ●「小中一貫教育校の選定」（平成 20 年 12 月）

基本方針に基づき、大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校を練馬区初となる小中一貫教育校に選定しました。

### ●「練馬区立小中一貫教育校推進委員会」（平成 21 年 5 月設置）

学校、保護者、地域の代表などで構成する練馬区立小中一貫教育校推進委員会を設置し、基本方針に基づき、小中一貫教育校の教育内容、学校経営、施設整備、就学等について検討しました。

### ●「練馬区小中一貫教育資料作成委員会」（平成 21 年 5 月設置）

アドバイザー、学校関係者などで構成する練馬区小中一貫教育資料作成委員会のもとに、練馬区の児童・生徒が抱える教育上の課題や小中一貫教育校独自の課題に着目して、4つの部会（表現力の育成、心の教育の推進、体力の向上、キャリア教育の推進）を設け、小中一貫教育校をはじめとする全ての小中学校が9年間にわたる一貫した指導をする際に活用する資料を検討しました。

### ●「小中一貫教育校連絡会」（平成 21 年 4 月設置）

大泉学園桜小学校および大泉学園桜中学校において、教職員による小中一貫教育校連絡会を立ち上げ、4つの分科会（教務、生活、学習、庶務）に分かれて、平成 23 年 4 月の開校に向けて準備を進めました。

### ●「練馬区立小中一貫教育校実施計画」の作成（平成 23 年 1 月）

推進委員会、資料作成委員会および小中一貫教育校連絡会の検討結果について、推進委員会において「小中一貫教育校実施計画」として取りまとめました。

## 小中一貫教育校の教育

（「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」に基づくものです。）

### ◆小中一貫教育校設置の意義

- 義務教育 9 年間の一貫した教育課程と学校環境のもとで学ぶ場を提供し、児童・生徒の発達段階に応じた学習指導と生活指導を行うことにより、児童・生徒一人一人の個性や能力を伸ばす教育の充実を図ります。
- 小中一貫教育校における取組とその成果を他の小中学校に情報発信して小中連携教育等に生かすことにより、すべての小中学校において特色や魅力のある学校づくりを推進し、練馬の学校教育の活性化を図ります。

### ◆小中一貫教育校の特色

- 小中の連続性ある教育活動の充実・推進⇒知・徳・体の調和のとれた児童・生徒を育成します。
  - ・知育では、児童・生徒の心身の発達段階に応じたきめ細かい指導や、小学校高学年からの一部教科担任制導入により、学習内容の定着と学力の向上を図ります。
  - ・徳育では、9年間にわたる学校生活を通して、小中一貫教育校だからこそできる異年齢集団による活動や体験的な学習を行うことにより、多様な生き方を指導します。
  - ・体育では、健康の保持増進や体力の向上を目指した指導を充実するために、地域社会と連携した生涯スポーツを推進し、生涯にわたる健康と体力の基礎づくりを図ります。
- 小中教職員の一体化による学校経営の活性化⇒学校経営の一元化を図り、学校教育を活性化します。
- 小中一貫教育校による学校・家庭・地域社会の教育力の向上⇒学校・家庭・地域社会の教育力を高め、地域に根ざした教育を推進します。

## ◆小中一貫教育校において期待できる効果

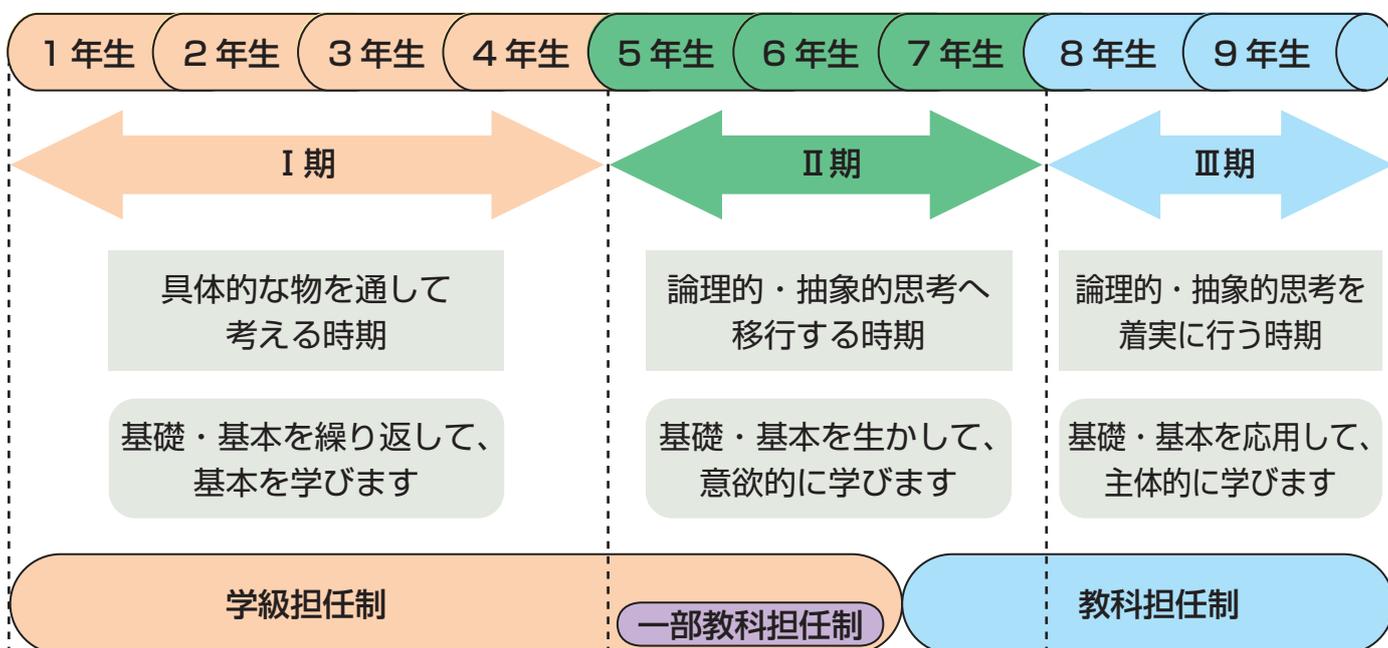
- 9年間を見通した教育課程を編成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導と生活指導の充実を図ることができます。
- 小学校から中学校へ進学する際の段差（学習内容や指導方法の違い）を緩やかなものにし、円滑な移行を図ることにより、安定した学校生活を送ることができます。その結果、不登校や問題行動を減少させることもできます。
- 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することができます。
- 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができます。
- 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を高めて、地域の教育力を向上させることができます。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができます。

## ◆小中一貫教育校設置による小中連携教育の充実

- 小中一貫教育校は、小中連携教育の課題を解決し、なお一層の推進を図るために、先導的な役割を担います。他の小中学校に向けて情報を発信し、その実践の成果を小中連携教育に生かすことにより、学習・生活指導上の課題解決を図ります。
- 小中一貫教育校の成果をみながら、学校と地域社会の実態や実情に応じて、小中学校の教員を対象とした合同研修会や教員の交流、指導の重点の共有、時間割編成の工夫、小中合同の教育活動や保護者の交流活動などを実践し、小中連携教育を更に充実させます。

## ◆義務教育9年間で3つの段階でとらえ、それぞれの時期に応じた「学び」を進めます。

- 今日の児童・生徒の心理的・身体的成長において、義務教育の9年間では以下のような特徴があるため、3期（Ⅰ期：1～4年生、Ⅱ期：5～7年生、Ⅲ期：8～9年生）に分けることにしました。
  - ・ 心身の発達の変化⇒身体的な発達が早まってきたことに伴い、心の発達も促され、小学校5年生頃から思春期が始まると考えられること。
  - ・ 学力形成の特質⇒小学校5年生頃から論理的思考に興味を示し、中学校2年生頃になると具体的な物を使わずに論理的な思考ができるようになること。
  - ・ 生徒指導上の課題⇒小学校5年生と中学校1年生において、不登校児童・生徒数が増える傾向にあること。



## 統一校名・統一校章・統一校歌

### ●統一校名

小中一貫教育校の統一校名を募集したところ、児童・生徒、保護者、教職員、地域の方々から、延べ498件の応募がありました。応募件数の多かったものは、①大泉桜学園（47件）、②桜学園（34件）、③大泉学園桜小中学校（21件）、桜小中学校（21件）でした。募集結果を参考に推進委員会において検討し、統一校名候補を2つに絞り込みました。その後、教育委員会での協議を経て、より使いやすくわかりやすい校名などの観点から、統一校名を「練馬区立小中一貫教育校 大泉桜学園」とすることになりました。

なお、統一校名は、小中学校9学年の児童・生徒の一体感を醸成するとともに、一元的な学校経営を推進するために使用するものであり、練馬区立学校設置条例上の名称については、大泉学園桜小学校・大泉学園桜中学校で変わりません。

### ●統一校章

推進委員会での検討の結果、斬新で新しい時代の学校をイメージできる校章（表紙参照）に決めました。

《校章のコンセプト》

9つのラインは、9年間の成長していく過程を木の年輪に重ねたもので、3つの球体は、1年生～4年生・5年生～7年生・8年生～9年生へのステップと無限に広がる可能性、宇宙空間を表現しています。

### ●統一校歌

大泉学園桜小・中学校の児童・生徒を対象に統一校歌に入れたい言葉を募集したところ、245件の応募がありました。応募件数の多かったものは、①桜（84件）、②元気（11件）、③未来（10件）でした。募集結果および教職員の意見を参考に推進委員会において検討しました。推進委員会での意見や「校歌に入れたい言葉」の募集結果などを、校歌を制作する際の参考としていただくために、校歌制作者に伝えることにしました。

なお、校歌の作詞は村田さち子氏（明治学院大学英文科卒業。平成元年より幼児による合唱団「ひまわりキッズ」主宰）に、作曲は西澤健治氏（武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。同大学院作曲科修了。日本作曲家協議会、日本童謡協会、日本音楽著作権協会、各会員）に依頼しました。

## 大泉桜学園の教育

### ●教育目標・・・「桜学精神」

知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成を目指し教育目標を「桜学精神」と決めました。桜は、人々に愛され親しまれ、その四季の移ろいの風情は、勇気と希望とうるおいをもたらしてきました。桜から学ぶとは、森羅万象の偉大さを桜という樹木を通して謙虚に学び、自らを成長させる心構えと実践力を養うことを言います。

教育目標の実現に向け、「3つの指針」を定めました。

【1～4年生】

元 気

チャレンジ

思いやり

【5～9年生】

桜の花よりも華ある人

桜の花よりも時機を知る人

桜の花よりも愛される人

1～4年生の児童には、分かりやすさに配慮するため、文言は現在の大泉学園桜小学校の教育目標を生かしました。

5～9年生の児童・生徒には、卒業後も人生の指針として記憶にとどめやすいよう桜にちなんだ象徴的な表現としました。

### 「3つの指針の考え方」

- ・第1に、華ある人とは、自分の良さを発揮して他の人と共に幸せに生きようと心がけることで成し得ることができ、元気であることが基本となります。
- ・第2に、満開の桜の花は美しく、咲く時機（チャンスとタイミング）を心得ているかのようです。また、木枯らし吹く寒さの頃に、既に花のつぼみはあります。苦難の時を越え、新たな大地を開拓するようなチャレンジの大切さを言います。
- ・第3に、桜の木の存在は人々に潤いと癒しをもたらしてくれます。自分の命の役割を自覚し自らの存在を大切にしていける児童・生徒は、周囲の人々に対しても思いやりの姿勢を示せるものです。

### ●学校経営体制等

- ・校長は、学校経営の一元化を図るため、1人とします。
- ・副校長は、3人体制とし、校長の学校経営を支えています。
- ・教職員の兼務発令により、全教職員が連携・協力して、1年生から9年生までの児童・生徒の9年間の成長を見守り、一貫して教育指導できる体制を整えています。

### ●大泉桜学園の特色

児童・生徒が自分のあるべき姿を知り、自らを大切にする「命の教育」をその根幹に、生活指導の徹底・学習活動の充実を目指します。

### ◎特色ある教育活動

#### 学習指導

#### ☆言語能力を高める教育活動

- ・低学年からかるた、百人一首、俳句、短歌に触れて、日本語の素晴らしさや良さを体験するとともに、漢字学習、四字熟語、ことわざ、故事成語にも触れて言語能力を高める教育活動の一層の充実を図ります。

#### ☆英語によるコミュニケーション活動の重視

- ・3・4年生でも英語の音声などに慣れ親しむことを目標としたコミュニケーション活動や英語の音声に触れる英語活動を行います。

#### ☆5・6年生の一部教科担任制

- ・中学校の教科担任制へのスムーズな移行や学習内容のより一層の充実を目指し、図工・音楽などに加えて5・6年生の理科と社会で教科担任制を取り入れます。
- ・中学校の教員が5・6年生を指導する授業を一部実施していきます。

#### ☆少人数指導の充実

- ・小学校の算数の授業を充実させることにより、個に応じたきめ細かな指導が可能になります。
- ・7年生から9年生では、数学と英語でより一層充実した少人数指導を取り入れていきます。

#### ☆個別補充学習（フォロー学習）の充実

- ・その日の授業はその日のうちに分かるまで教える学校を目指すため、個別学習室を3室用意し、学力向上支援講師およびeラーニングによる学習システムを確立します。
- ・基礎的・基本的な補習が必要な7～9年生には小学校の教員が指導したり、中学校の教員が小学校のティームティーチングによる授業に参加します。

## 体験活動および異年齢集団による活動の重視

### ☆「大泉桜の里」の設置

- ・学校のシンボルとして、正門の正面に「大泉桜の里」と銘を打ち水田を拡充します。
- ・学習田で「米」を作り、収穫後は糠を使った漬物やわら細工づくりを体験します。

### ☆異年齢集団による活動

- ・遠足（大泉中央公園・和光樹林公園でのオリエンテーリング）は、1年生から4年生の縦割り活動で行います。
- ・5年生以上の学年については体験学習の一環として、5つの学年の縦割り活動による飯ごう炊さんを行います。
- ・複数学年による校外学習を実施します。
- ・運動会は1～9年生が一堂に集まって行います。
- ・大泉学園桜小学校の学芸会と大泉学園桜中学校の合唱祭を統合して、「桜祭」を実施します。
- ・大泉学園桜小学校の展覧会・大泉学園桜中学校の作品展を一本化し「学習発表会」とします。

## 儀式的行事

- ・入学式は1年生と7年生が、卒業式は6年生と9年生が一堂に会して行います。
- ・始業式、終業式、修了式も大切な学校の儀式的行事として、参加する心構えや礼儀作法を重んじて指導していきます。

## ◎5年生から参加できる部活動

異年齢集団による自主的・自発的な活動を通して生涯にわたり運動や文化に親しむ能力や態度を養うため、Ⅱ期（5～7年生）が始まる5年生から中学校の部活動に参加できることとします。

## ◎生活時程

- ・全学年の1校時と5校時の開始時刻を合わせて、1年生から9年生までの児童・生徒が合同で教育活動に取り組むことができる環境を整えます。
- ・5年生以上は50分授業とします。

## ●標準服

「小中一貫教育校標準服検討委員会」（平成21年12月設置）

大泉学園桜小・中学校内に設置した、小中一貫教育校標準服検討委員会において、平成22年9月まで11回にわたり新しい標準服の導入について検討しました。

### 【検討の結果】

- ・新7年生(中学校1年生)からモデルチェンジ
- ・小学校1年生から任意着用で導入  
(小学校5年生から強く推奨)
- ・新しい標準服  
ブレザー⇒紺色  
スカート・ズボン⇒グレーのチェック柄

なお、標準服には、小中一貫教育校としての一体感、規範意識、帰属意識が醸成されることや地域社会から見守られることで安全性が高まることが期待されています。



## 就学の特例

- 小中一貫教育校への就学に当たり、以下の特例を設けることとし、平成22年度新入学予定者から適用しています。

### 〔通学区域制度の特例〕

小中一貫教育校の小学校（以下「一貫小学校」という。）の通学区域外に居住している方のうち、小中一貫教育校の中学校（以下「一貫中学校」という。）の通学区域内に居住している方から、一貫小学校へ入学したいとの希望があれば、原則として小学校新入学時から入学できることとします。（下図参照）

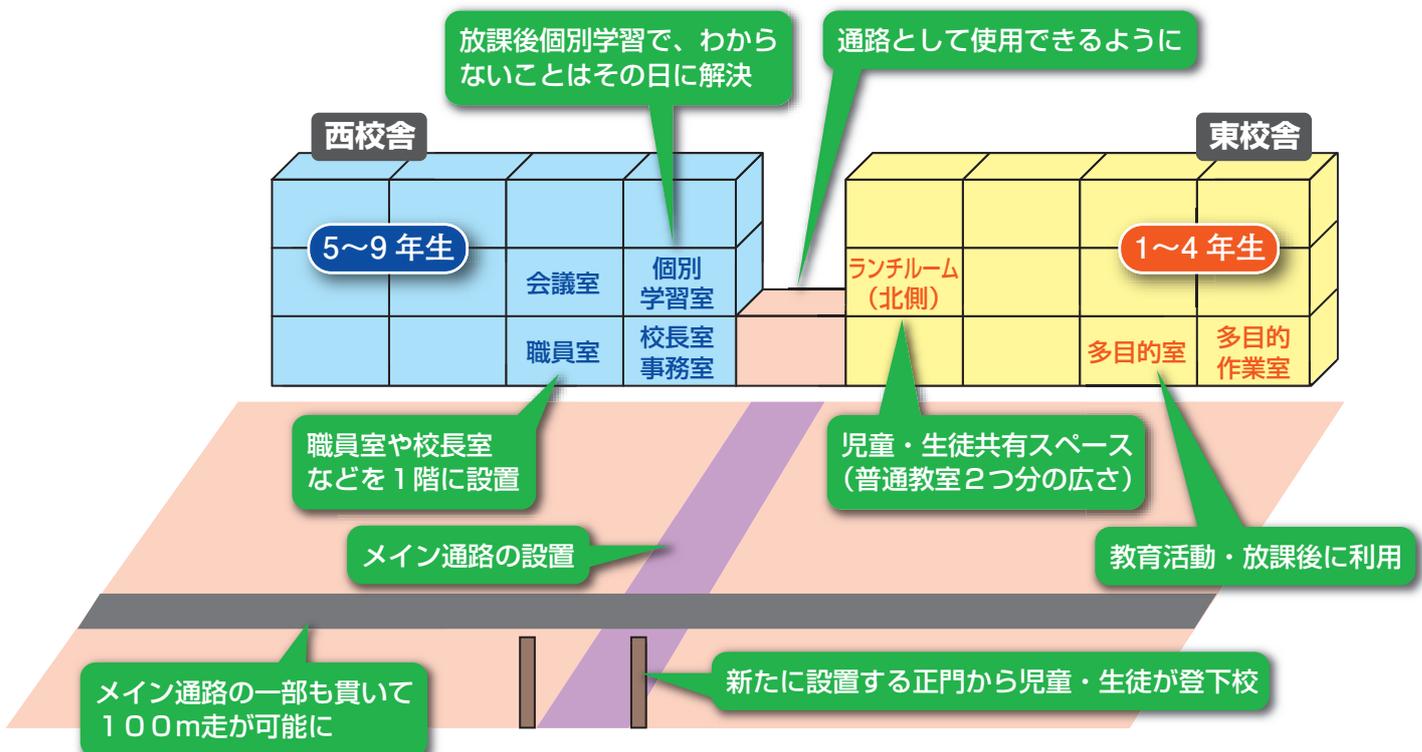
### 〔学校選択制度の特例〕

一貫中学校の通学区域外に居住している方のうち、一貫小学校に在籍している方から、一貫中学校へ入学したいとの希望があれば、原則として入学できることとします。



## 施設整備

- 小中学校の児童・生徒および教職員が日常的に交流し、より高い教育効果を上げることができるよう、大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校の校舎等を改修します。
- 既存校舎を活用するとともに、小中一貫教育校として必要な機能を整備します。



## 小中一貫教育資料の概要

### ●ねらい

- ・小中一貫教育資料は、9年間にわたる一貫した指導資料として作成し、小中一貫教育校が編成する教育課程の中で活用します。また、他の区立小中学校にもこの資料を提供し、小中一貫・連携教育の推進に役立てていきます。
- ・作成にあたっては、学習指導要領に準拠しながら、練馬区の児童・生徒が抱える教育課題に着目して、「表現力の育成」、「心の教育の推進」、「体力の向上」、「キャリア教育の推進」について、9年間のⅠ期（1～4年生）、Ⅱ期（5～7年生）、Ⅲ期（8～9年生）のまとまりに分け、発達段階に応じて、目指す子供像の達成のための学習内容および学習方法を提案します。

### ●構成

- ・小中一貫教育資料には、教師用資料（教師が授業を行うための学習指導案集）と児童・生徒用資料（授業で用いるワークシートや資料の電子データをまとめたCD-ROM）があります。

### ●活用方法

- ・教師用資料は、4つの部会が提案する9年間の指導プランを該当学年の道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の年間指導計画の中に位置付けて活用します。
- ・児童・生徒用資料は、教師用の学習指導案をもとに授業を進める際に、CD-ROMから授業に必要なワークシート等をプリントアウトして活用します。

## 児童・生徒に関わる教育課題に着目して設定した4つの重視する事項について、9年間を見通して指導する小中一貫教育資料を作成

